

平成 21 年 5 月 29 日現在

研究種目：基盤研究（C）
 研究期間：2005～2008
 課題番号：17591434
 研究課題名（和文） 大腸癌術後に前向きに経過観察された大腸腺腫の発生・増大に関わる遺伝子異常の検索
 研究課題名（英文） Genetic alteration of small adenomas prospectively observed after colorectal cancer surgery.
 研究代表者
 富樫 一智（TOGASHI KAZUTOMO）
 自治医科大学・医学部・准教授
 研究者番号：10316531

研究成果の概要：大腸癌術後患者の術後サーベイランス内視鏡において、6mm以下の大腸ポリープ 500 病変が軽・中等度異型腺腫と内視鏡診断され、経過観察された。このうち 412 病変で内視鏡が実施され、腫瘍径・形態の経時的変化が評価された。腫瘍径の変化は、不変 71%、増大 15%、縮小 3%、再発見不可 11%であり、明らかな形態を示したものもほとんどなかった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005 年度	1,100,000	0	1,100,000
2006 年度	700,000	0	700,000
2007 年度	700,000	210,000	910,000
2008 年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,200,000	420,000	3,620,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：外科系臨床医学・消化器外科学

キーワード：大腸腺腫・大腸癌術後・大腸内視鏡検査・マイクロアレイ

1. 研究開始当初の背景

すべての大腸腺腫が高率に癌化するわけではなく、腺腫と癌の発生率の検討から、一部の腺腫のみが癌化すると考えられ、癌化する腺腫と癌化しない腺腫の間にはなんらかの遺伝子的相違が想定されている。

2. 研究の目的

大腸の小腺腫を対象として、前向きに無処置として経過観察することにより、その自然経過を明らかとし、“腫瘍径が増大した大腸腺腫”と“腫瘍径が増大しない腺腫”と間にある遺伝子的背景の相違を解明する。

3. 研究の方法

大腸癌術後患者において 6mm以下の大腸腺腫を切除しないで、病変の径・形態などを定期的に経過観察した。経過観察中に、増大した病変や組織学的異型度の増大が疑われる病変は切除し、変化のない病変を対照群として分子生物学的検討を行った。

4. 研究成果

6mm以下の大腸ポリープ 412 病変で内視鏡による経過観察が実施された。腫瘍径の変化は、不変 71%、増大 15%、縮小 3%、再発見不可 11%であった。切除された 18 病変においてマイクロアレイ法による検索が試みられたが、まだ予備実験の段階にある。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 2 件)

1. Togashi K, Shimura K, Konishi F, Miyakura Y, et al. Prospective observation of small adenomas in postc-olorectal-cancer surgery patients through magnification chromocolonoscopy. Dis Colon Rectum (査読あり) 51:196-201:2008
2. 鯉沼広治, 富樫一智. 異時性大腸癌を標的としたサーベイランス大腸内視鏡検査。癌の臨床 (査読なし) 52: 285-8. 2006

[学会発表] (計 4 件)

1. 志村国彦、富樫一智、堀江久永. 拡大観察により軽・中等度異型腺腫と診断された小ポリープ (6mm以下) の自然史、大腸癌術後例における検討. 第 94 回日本消化器病学会総会 (ワークショップ) 2008 年 5 月 10 日 福岡
2. Togashi K, Shimura K, Konishi F, Miyakura Y et al. Prospective observation of small adenomas in post colorectal cancer surgery patients through magnification chromocolonoscopy. American Society of Colorectal Surgeons, Annual Meeting 2007 (Oral) 2007 年 6 月 5 日 米国 セントルイス
3. Togashi K, Shimura K, Konishi F, Miyakura Y et al. Prospective observation of small adenomas through magnification chromocolonoscopy in post-colorectal-cancer surgery patients. 14th The United European Gastroenterology Week 2006 年 10 月 24 日 ドイツ ベルリン
4. 志村国彦, 富樫一智, 宮倉安幸, 他. 大腸癌術後に発見される 5mm 以下の大腸腺腫の自然史. 第 61 回日本大腸肛門病学会総会 (口演) 2006 年 9 月 29 日 弘前

[図書] (計 1 件)

1. 志村国彦、富樫一智、堀江久永. 拡大観察により軽・中等度異型腺腫と診断された小ポリープ (6mm以下) の自然史、大腸癌術後例における検討. 第 94 回日本消化器病学会総会記念誌 (in print)

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

富樫 一智 (TOGASHI KAZUTOMO)
自治医科大学・医学部・准教授
研究者番号:10316531

(2) 研究分担者

宮倉 安幸 (MIYAKURA YASUYUKI)
自治医科大学・医学部・講師
研究者番号:50306122

(3) 連携研究者

なし